

令和5年11月15日
(2023年)

保護者の皆さまへ

吹田市立南千里中学校
校長 生駒 靖子

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学・英語に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1、教科に関する調査結果の分析

【国語】

(1) 概要

本校生徒の平均正答率はすべての設問において全国値を上回る。

(2) 学習指導要領の領域別で見た状況・成果と課題

○話すこと・聞くこと

(成果)・正答率が高く全国値を上回っている。

- ・特に「聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるか」は全国値よりも大幅に高い。

(課題)・「聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるか」には無回答がある。

○書くこと

(成果)・正答率が高く全国値を上回っている。

- ・特に「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるか」は全国値よりも大幅に高い。

(課題)・「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるか」は全国値同様数値が低く、苦手とする生徒が多い。

○読むこと

(成果)・正答率が高く全国値を上回っている。

・特に「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるか」は全国値よりも大幅に高い。

(課題)・「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるか」は全国値同様、無回答の割合も高い。

○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(成果)・正答率が高く全国値を上回っている。

(課題)・自己の経験を語る内容については、正答率が他と比べて低い。

(3) 国語科における成果と今後の改善点について

全体的に平均正答率が高く、すべての設問で全国値を上回っている。また、学習状況調査においても、「国語の勉強は大切だと思いますか」「国語の授業で、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえていますか」に対する肯定的回答が全国値よりも非常に高く、1, 2年生から意欲的に取り組んできた成果が顕著である。しかしながら、記述問題の無回答率が高い傾向も見られるが、正答率が高いため、書くことが得意になった層と、そうでない層とが共存している状況にあることがわかる。そのため、意見を伝えるため根拠を明確にして文章を書く活動を今後も継続していく必要がある。また、書写においては、行書の特徴を意識して書く機会を増やしていく必要がある。

【数学】

(1) 概要

本校生徒の平均正答率はすべての設問において全国値を上回る。

(2) 学習指導要領の領域別で見た状況・成果と課題

○数と式

(成果)・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができている。

・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。

(課題)・自然数の意味を理解しきれていない生徒が多い。

○図形

(成果)・ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる。

・条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができる。

(課題)・空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しきれていない生徒が多い。

○関数

(成果)・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができている。
・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができている。

(課題)・反比例の意味を理解しきれていない生徒が多い。

○データの活用

(成果)・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができている。

(課題)・累積度数の意味や、四分位範囲の意味を理解しきれていない生徒が多い。

(3) 数学科における成果と今後の改善点について

全国値と比較すると、すべての問題において平均正答率は上回っている。特に、事柄が成り立つ理由などを、数学的な表現を用いて証明する問題については、全国値よりも大きく上回り、ペア・グループ学習や、レポート課題等の成果が一定数あったと考えられる。

ただし、基礎的な用語の意味を本質的に理解できていない生徒が多い。「知識」の観点をより充実させることで、さらに学力の向上を図ることができると考えられる。

また、学習状況調査においては「数学の勉強は好きですか」や「数学の勉強は大切だと思いますか」の項目が全国値よりも大きく下回っている。これを踏まえて、日常生活で起こる事象を数学的に捉えることの良さや、数学的に捉えた問題を解決することの有用性がわかるような課題に取り組んでいく必要がある。

【英語】

(1) 概要

本校生徒の平均正答率はすべての設問において全国値を上回る。

○聞くこと

(成果) 放送された情報を正確に聞き取り、理解することができる。

(課題) 日常的または社会的な話題について目的に応じて英語を聞き分け、必要な情報を取捨選択することに課題がある。また、得た情報をさらに活用するような形式の問題では正答率が下がる。

○読むこと

(成果) 情報を正確に読み取ることができるだけでなく、事実と考えを区別して読むことができる。また、日常的または社会的な話題について自分の置かれた状況などから判断し、必要な情報を読み取ることができる。

(課題) 全国学力テストからは大きな課題は見られなかったが、授業やテストにおいて長い英文を読むことに対して苦手意識を持つ生徒が非常に多い。

○書くこと

(成果) 未来表現や疑問詞を用いた疑問文を正確に書くことができ、それらをつかってまとまりのある文章を書くことができる。

(課題) 全国学力テストからは大きな課題は見られなかったが、授業での書く活動では、間違えた単語や文法で書いてしまうことを恐れ、既習事項を用いてまず自身の力で書いてみようとする生徒が少ない。

○話すこと

(成果) 5問ほぼすべてが全国正答率の2倍程度の正答率である。ほぼ毎回の授業で取り組んでいる対話のペアワークが活かされている。

(課題) 5問中2問で無回答率が全国を上回っており、自信がない問題に対してなにか答えようという生徒が少なかったことが分かった。

(3) 英語科における成果と今後の改善点について

全体的に平均正答率が高く、すべての設問で全国値を上回っている。また、学習状況調査においても、「英語の勉強は大切だと思いますか」「英語の授業で原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか」や、「英語の授業で聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか」に対する肯定的回答が全国値よりも非常に高く、1, 2年生から意欲的に取り組んできた成果が顕著である。しかしながら、「話すこと」の問題の無回答率が高い傾向も見られる。正答率が高いため、話すことが得意になった層と、そうでない層とが共存している状況にあることがわかる。そのため、自信がない問題に対して既知の単語や文法事項を使って表現しようとする活動を今後も継続していく必要がある。

2. 全国学力・学習状況調査「生徒質問紙」より (●は課題について)

(1) 家庭生活について

○「朝食を毎日食べていますか」に対する肯定的回答は全国値を大きく上回っている。

●「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」に対する肯定的回答は全国値よりも上回っているが、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対する肯定的回答は全国値よりもやや下回っている。

○「家で自分で計画を立てて勉強していますか(学校の授業の予習や復習を含みます)」に対する肯定的回答は全国値を大きく下回っている。

○「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉

強していますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含まれます）。」に対して、1時間以上と回答している割合は全国値より大きく上回っている。また、2時間以上3時間より少ないと回答した割合が3割近くある。

- 「新聞を読んでいますか」に対する肯定的回答は全国値についてもかなり低い割合になっているが、それよりも下回っている。
- 「読書は好きですか」に対する肯定的回答は全国値よりもやや下回っている。

改善・向上のために

- 朝食を採ることで学習意欲や学習効率が高まること、気持ちの安定、また、熱中症予防にもつながると言われています。規則的な生活習慣は落ち着いた学校生活を送るためのベースとなります。今後とも、生徒の成長期を支えていただきますようお願いします。
- 日々の家庭学習では、時間をかけ、習慣化できていること生徒が多い反面、自分で計画を立てる学習よりも学校からの課題や塾等での課題を進めている割合が多い状況がうかがえます。目的意識を持ちながら、主体的に学習に臨めるようにサポートをお願いします。
- 新聞ばなれが顕著となり、情報入手媒体のデジタル化が一層進んでいます。SNS等の取扱いについてはデジタル・シティズンシップ教育を実施していきませんが、引き続き、ご家庭での適切な管理をお願いします。
- 本校では“朝読書”を実施しています。毎朝、静寂の中で全学級が集中する姿があります。ご家庭でもいつも傍らに読みかけの本がある環境づくりにご協力ください。

(2) 自分自身について

- 「自分には、よいところがあると思いますか」に対する肯定的回答は全国値よりも上回っている。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」に対する肯定的回答は全国値よりもやや下回っている。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対する肯定的回答は全国値よりも上回っており、ほぼ全員が回答している。
- 「友達関係に満足している」に対する肯定的回答は全国値をやや上回っている。
- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。」に対する肯定的回答は全国値よりも上回っている。

改善・向上のために

□学校として

- 大阪府の進めるキャリアパスポートも活用しながら自らの長所や短所を知り、さらに高めていき、自らの自信につなげられるよう、日々の学級・学年における集団づくりにかか

る取組みを工夫していきます。

- 学習活動においても対話的な学びを積極的に取り入れることで、自己理解、他者理解を深め、ともに学べる集団づくりを基盤にさらに各々の自己肯定感を育てていきます。
- 学校行事や特別活動等においては、教科での学びを生かしながら、さらに主体的に行動し、仲間と共に同じ目標に向かって切磋琢磨し、やり切る経験をとおして、自己有用感や達成感、仲間意識を高めていけるように内容を充実していく必要があります。
- 学校生活や友達関係、普段の生活も含めて、多くの生徒が満足していることがわかりました。今後とも「南中生みなが楽しいと思える学校づくり」に努めていきます。

□家庭として

- 「いじめについては、いつでも誰でもどこでも起こりうるもの」という認識の元、教職員のアンテナを高く持ちながら迅速かつ丁寧に対応することを心がけていますが、ご家庭でもいじめに関する気づきがありましたらいち早く担任へご相談下さい。また、SNS 関連のトラブルも多々見受けられます。日頃から機器の取扱いややり取りについては生徒任せではなく、ご家庭でのルールを確認するなど、中学生として適切に使用できるようにご協力をお願いします。

(3) 学校生活・学習について

- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する肯定的回答は全国値よりも上回っている。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」に対する肯定的回答は全国値よりも大きく上回っている。
- 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う」に対する肯定的回答は全国値よりも大きく上回っている。
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」に対する肯定的回答は全国値よりも大きく上回っている。
- 「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対する肯定的回答は全国値よりも大きく上回っている。

以下は「1, 2年生のときに受けた授業で」

- 「PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」に対し、週3日以上と回答した割合は全国値よりも大きく上回っている。
- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」に対する肯定的回答は全国値よりも大きく上回っている。
- 「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」に対する肯定的回答は全国値よりも大きく上回っている。

改善・向上のために

□学校として

- 多くの生徒について、教員との信頼関係が培われていることがわかります。まずは居心地のいい学級がベースであり、安心・安全の学校となります。生徒と生徒、生徒と教員とのつながりを大切にした学校教育活動を実現していきます。
- 学習指導要領のめざす学力観をめざし、ICT 機器の利活用や主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくりを推進してきたことが生徒回答に反映されています。今年度11月末までに ICT 関係は5本の校内研修を、また授業改善に向けた研修を8本行いました。引き続き、個別最適な学び、協働的な学びによる学力向上（数値で表れない学力も含む）に向け、教員研修の充実を図っていきます。

3 今後の取り組み

☆学校教育目標

自ら学び、ともに繋がり、やり抜く生徒の育成

☆学力向上研究テーマ

「自ら課題を発見し、仲間と共に解決して、考えを深めよう」

学習指導要領に沿った授業づくりを行いながら、生徒に求められる力の育成を図るべく、能力ベースの授業に焦点を当て、上記のテーマを設定する。

- ・学校目標に基づいた研究や校内研修を生かしながら、教職員が日々の授業で“主体的・対話的で深い学びの実現”を意識した学習活動となるよう、ICTの利活用を進めつつ、引き続き授業改善に取り組めます。
- ・3年生では数学および英語で習熟度別での少人数指導（1クラスをおよそ1対2に分割を行っています。よりきめ細やかな指導に努めます。
- ・道徳では全学年水曜日1限に実施し、担任以外の学年教員も参画したローテーション授業を行っています。授業の中で意見を交流し、多様な考えに触れながら自らの考えを深めていく「考え、議論する道徳」をめざします。
- ・総合文化発表会、体育大会を終え、教科での学びを生かしながら、仲間とともに主体的に協働し、集団としての成長も見られました。今後とも個々の学校生活への意識を一層高め、取り組みの充実を図っていきます。